

# 11・4日比谷野音へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2012年10月29日  
No.64

Tel 03-3651-4861  
mail\_cn001@zengakuren.jp  
http://www.zengakuren.jp/

## 11/4大結集の力で

# 武田君への処分撤回を!

### 全学連書記長・坂野陽平

◆10月23日、法政大学国際文化学部臨時教授会において同学部3年武田雄飛丸君に対し、「無期停学」処分が決定された。私たちは、この処分への悔しさと憤りで一杯だ。全国の学生のみなさん! 武田君への処分を絶対に撤回させよう!

処分への怒りをバネに、11・4集会をもって、大学と社会を根底的に変革する学生運動の復権・創成とともに立ち上がろう!

◆今回の「無期停学」処分は、10・19法大闘争の大爆発に対する法大資本の恐怖のあらわれだ。10月19日、法大市ヶ谷キャンパスで、教職員のすさまじい監視体制とキャンパス封鎖をうち破り、1000人集会が開催された。私たちはこの日の興奮と感動を決して忘れない。ある学生は、仲間と誘い合って昼休みに集会場へと向かい、ある学生は集会の喧噪の中で、弾圧専門の教職員へカラーコーンを投げつけている。武田君の一言一言に湧き上がる歓声。まさに、法大生が一つになった瞬間だった。

2006年3月14日以降、法政大は119人の学生を逮捕し、2桁を超える学生を処分してきた。法政大は95年「日経連プロジェクト報告」において打ち出された「9割非正規職化」に呼

応して「自立型人材の育成」を掲げた。また「営業権」を掲げ、学生の表現活動を禁圧してきた。要するに法政大は、「営業権」の下に利潤の拡大(金儲け)を至上命題とし、政府・財界の要請に沿い、それらに従順な学生をつくり、その範疇を一步でも超えるような学生には、容赦ない弾圧を加えてきたのである。

10月19日、法大生はこれら一切に反旗を翻した。自主法政祭(学祭)規制への法大生の怒りはすさまじい。飲酒規制の「学祭規制8項目」にはアンケートで5割もの学生が反対し、2割の学生が全学説明会で学祭実行委に不信任を叩きつけている。「学祭規制反対」を掲げた10・19集会と武田君の訴えは圧倒的正義であり、その声を処分をもって押しつぶそうとする法大当局の不正義性はいよいよ明らかだ。

◆繰り返すが、武田君への「無期停学」処分の本質は、10・19集会への反動である。それはかつてない処分決定の「迅速



## 11・4全国労働者総決起集会

新自由主義と闘う労働組合の全国ネットワークを!

外注化阻止・非正規職撤廃、解雇撤回! 反原発・反失業!

◆11月4日(日)正午~

◆東京・日比谷野外音楽堂にて

【主催】全日本建設運輸連帯労働組合・関西地区生コン支部、全国金属機械労働組合・港合同、国鉄千葉動力車労働組合、国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動 [http://www.geocities.jp/nov\\_rally/](http://www.geocities.jp/nov_rally/)

※右写真は、5950人が結集した昨年11月6日の全国労働者総決起集会



さ」にもあらわれている。国際文化学部による武田君の「呼び出し」が行われた23日当日に臨時教授会が行われ、処分が決定している。「呼び出し」以前から処分内容が決定していたことは、誰の目にも明らかだ。しかも、23日の「呼び出し」には応じられないという武田君の意志は一顧だにされず、踏みこたれているのだ。これが法大当局のやり方だ。

処分「理由」として、10月6日の放射線影響研究所所長・大久保利晃講演への弾劾闘争があげられている。しかしこの大久保こそ、ヒロシマ・ナガサキの被曝者データを意図的に歪曲し、内部被曝問題を隠蔽し、福島県民の怒りの的である人物だ。この批判に応えず、それどころか暴力的手段で学生の声を押殺する法政大学とはいったい何なのか！

いま一つ、入学以来の「迷惑行為」を処分理由にしている。しかしこれは、規制反対のビラまきや演説など、法大当局に都合の悪い批判をこのように言いなしているにすぎない。

法大当局は、法大文化連盟が正式手続きで提出した申し入れ書と公開質問状に一貫して回答していない。そして7・13全学説明会では暴力職員が動員されて武田君排除に手を染め、ついに10月19日には、教授どもは自らの授業をわざわざ休講にして放棄してまで、弾圧を行ってきている。も

はや現在の法政大学に、「大学・教育」を語る資格はない！

◆11・4集会大結集の力で、武田君への処分を撤回させよう！ 11・4集会から処分撤回の大闘争を開始しよう！ 全国学友は11・4集会に結集し、武田君と団結しよう！

想像してほしい！ 街頭で反原発行動に立ちあがったのべ100万人もの人々が、10・19集会のような闘い、武田君のような闘いを、自らの職場・キャンパスから開始したら一体どうなるかを！ 11・4集会を主催する動労千葉のように、外注化を阻止し、非正規職撤廃をなくす闘いあらゆる労働者・労働組合が立ちあがった時、どれほどの展望が切り開かれるかを！

全学連は、武田君への「無期停学」処分撤回の大闘争に総力で立ち上がる。新自由主義の下、貶められてきた学生の怒りを一つに束ね上げよう。11月4日、全世界の労働者とともに、新自由主義に対する総反撃を宣言しよう！



武田雄飛丸君

## 首都圏A私大1年生から 11・4集会参加の呼びかけ

10・19の法大デモに初めて参加しました。

法大生ではない私がこのデモに参加しようと思ったのには訳があります。それは、法大の学祭規制や不当処分、学生の不当逮捕を知るにつれ、法大生だけでなく、学生一般が、何より私自身が侮辱され、侮蔑されていると感じたからです。

しかしもっと言えば若者全体が、社会の中でひどく不当に扱われている現状がここにあらわれているのではないのでしょうか？ 進む非正規職化、「教育の民営化」、高い学費、アルバイト漬けの生活、ワーキングプア、関係性の崩壊、人と人との関係が手段としてしか成り立たない世界…。

まさに法政大学のデモとは、普段は見えない、大学当局の隠された矛盾が表出



する場ではないでしょうか。まさに「3・11」によって日本の矛盾が浮き彫りになったように。

逆に言えばそのような場や時間がなければ、安穩とした「憧れのキャンパスライフ」というのっぺりとした「現実」の中で、すべてはただただ隠されたまま何事もなかったかのように先送りされるだけでしょう。

しかし、まさにその虐げられている若者自身が声を上げなければ、一体誰が声を上げるのでしょうか。いつものように親が、大人が、なんとかしてくれるのでしょうか。

残念ながら、親は先に死にます。大人たちはその既得権域のために、若者に席を譲らず、椅子にどっかり腰を下ろしています。もう一度言います。まさにその虐げられている若者自身が声を上げなければ、一体誰が声を上げるのでしょうか。

そのような疑問を持ちつつ、私は11・4集会に向かいます。

首相官邸前～国会議事堂周辺～永田町～霞ヶ関一帯の超大規模大占拠！

# 11/11 反原発1000000人大占拠

11月11日(日) 13時～ 国会&霞ヶ関周辺デモ  
15時～19時 国会周辺並びに  
周辺省庁での抗議・占拠  
17時～19時 国会正門前大集会

【主催】首都圏反原発連合 ※右写真は今年7月29日の国会包囲20万人デモ

